

## 徳島県阿南市で開かれたパネル展「731部隊展」と映画「スパイの妻」の感想

・「スパイの妻」上映会では、映画の内容にマッチしたパネル展のお陰で、260名が入場し、成功しました。どの人も熱心にパネルを食い入るように見ていました。相乗効果で話もはずみました。本当にして良かったと思います。ありがとうございました。

「あなんで映画を見よう会」実行委員

・パネル展… 731部隊、石井隊長に関する本は何冊か読みました。あまりの残酷さに胸につまる思いで読んだことを今でも振り返ることができます。戦争が人間をどのように変えてしまうのか、国家とは何なのか、個人の意思は、人生は、いろいろなことを考えさせられました。日本は被爆国で、たくさんの方の被害を受けました。沖縄戦も。でも日本人も満州でしてきたことは、人間のすることではありません。日本の恥ですが、世界の人々も知るべきだと思います。

ひとりの人間の幸せに変わるものはありません。不幸にする権利もありません。世界人類が幸せになるべきです。

「スパイの妻」の小説を読みました。その後で映画が上映されることを知り、鑑賞させていただきました。

(60代 女)

・パネル展… 小4の息子も真剣に見てくれました。私も知らないことが沢山あり、大変驚きました。日本人として戦争の被害体験と同時に加害の真実も知り、子どもたちにも伝えていかなければと思います。

『スパイの妻』…「私は一切狂っていないのです。ただ、それがつまり私が狂っているということなんです。きっとこの国では」というセリフが大変重く印象的でした。国家的に行われる検閲やフェイクニュースの中で、自分が正しいと思ったことをもし私があの戦争中にいたなら貫けただろうかと思ってしまうました。

(40代 女)

・『スパイの妻』… 先に731のパネルを熟読していたので、当時の様子をよく想像することができました。731の映画はこれからもとても大事だと思います。パネル展と合わせて、とてもよかったです。これからもこうした戦争、そして、戦争犯罪を取り上げた映画を上映してください。

(50代 女)